

主体的に学び、たくましく生きる子どもの育成  
—互いに認め合い、磨き合い、高め合う授業の工夫—

学力向上推進員 委員  
宮内・安丸・太田 全教職員

校長 三屋田 朗広

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学力調査の平均を上回っている。学習内容を概ね理解し、基礎・基本の力は身につけてきている。 漢字の読み書きや計算の力は十分身につけている。	①基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。 ②語彙の数を増やし、正しい言葉や発音で文を読んだり、学年に応じた長さ・内容の文を作ったりできる。	①基礎的・基本的な知識や技能についての問題正答率90%以上を目指す。 ②読書の習慣をつける。1週間に3冊以上の読書をする。読書賞で意欲を高める。	・		
課題 学力に二極化傾向が見られる。問題を読み取る力や問題場面をイメージする力、考えを話す・書く力が弱く、語彙の数も少ない児童がいる。	具体的方策(教員の取組) ①読み聞かせの充実を図る。音読指導や作文指導を丁寧に行う。ノート指導を充実させ、言語環境を整える。 ②学習形態やワークシート・板書の工夫・ICTの有効活用。 ③学習課題の設定と振り返り方法を工夫する。	取組指標 ①音読、読書、作文指導を積極的に取り入れる。また、国語辞典等を活用する。 ②朝の学習(モジュール学習)時間を設け、漢字・計算の練習、読書を一層充実させる。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 課題解決に向けて多面的に考えたり、自分の考えを伝えようとするに、興味を持っている児童が多い。課題に対して疑問を持ち、解決したいと考える児童が増えている。	目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。 読み取ったことやそれに基づいて考えたことを、目的や条件に応じて話したり書いたりして伝え合うことができる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは得意」と答える児童の割合を80%以上にする。			
課題 自分の考えや思いを、筋道を立てて説明したり、文章で表現したりすることに課題がある。習得した知識や技能を活用して考察したり、説明したりすることが十分でない。	具体的方策(教員の取組) ①学習活動の中で様々な文章を読む機会を増やしたり、自分の考えを文章に書く・話す・発表する機会を多く設ける。メモをもとに説明や発表ができるような活動を取り入れる。 ②発表の仕方など話し方のモデルを提示する。	取組指標 ①効果的な読み方を工夫する活動を取り入れる。理由や根拠をつけて発表したり具体的に説明したりする機会を増やす。 ②自信をもって発表できるようにする。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習や生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。学習には、多くの児童が意欲的に取り組むことができている。 家庭学習(宿題・自主学習等)に真面目に取り組む児童が多い。	課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができ、自信を持つことができる。 「学習のルール」を理解して集中力を高めて授業に取りかかり、学習展開の各段階を充実させることができる。	「分からないときあきらめないで考える」「勉強が好き」「疑問に思うことを自分で調べる」の児童の回答率を各85%以上にする。 児童が、自己の変容に気付くようにする。			
課題 自己肯定感が低い傾向がある。分からないことがあっても最後まであきらめない気持ちや、疑問に思ったことや分からないことについて追求しようとする意欲が十分とは言えない。	具体的方策(教員の取組) ①分かる授業、学ぶことが楽しいと感じる授業を工夫する。体験や活動を取り入れ、自主的に解決できるようにする。 ②家庭学習の工夫をするともに、学校便り・ホームページ・家庭学習の手引きで学習の習慣化への協力を願う。	取組指標 ①授業の中で、進んで課題に取り組んだり積極的に発表したりする姿が多く見られるようにする。 ②家庭学習の提出率を95%以上にする。		評価	次年度における改善事項

平成31年度 学力向上ロードマップ

